

グループホーム はなみずき

令和7年10月号

日中はまだ夏の名残を感じる暑さが続いています。朝晩はだいぶ涼しくなり少しずつ秋の気配が感じられるようになってきました。ご家族様はお変わりなお過ごしでしょうか。

入居者の皆様は、体調を崩されることなくお元気に過ごされています。

先月は、納涼会と敬老会を開催しました。納涼会では射的や金魚すくいのレクリエーションを行い、景品をかけて真剣勝負をされていました。敬老会では、感謝とこれからもお元気で過ごせるようにとの気持ちを込めて、ささやかですがお祝いの品をお渡ししました。

皆様に楽しんでいただけたら、喜んでいただけることが励みになっています。

秋が深まった頃には、紅葉を見にドライブに出掛けて季節を感じていただけたらと思います。季節の変わり目ですので、お身体にお気を付けてお過ごしください。

お知らせ

朝晩がだいぶ冷え込むようになり、そろそろ薄手の長袖や羽織物が必要な時期になりました。ご自宅に秋冬物がありましたらご持参いただけますと助かります。また、足りないものやサイズが合わなくなったものなどがあった際は、ご連絡させていただきます場合があります。その際は、よろしくお願いいたします。

介護についての豆知識～認知症の治療方法

認知症の治療薬

薬剤名(一般名)	使える病気	主な作用
アリセプト (ドネペジル塩酸塩)	アルツハイマー病の軽度～中等度～高度に使える薬です。 レビー小体型認知症にも使えます。	コリンエステラーゼ阻害剤とよばれ、脳を活性化させることで認知機能を改善させる作用があります。
レミニール (ガランタミン)	アルツハイマー病の軽度～中等度に使えます。	この3薬は同じ作用をもつ薬なので、併用はできません。 興奮を促す作用があり、活動量が落ちたり、うつ症状が出ている認知症の人に有効です。
イクセロン リバスタッチ (リバステグミン)	アルツハイマー病の軽度～中等度に使えます。	
メマリー (メマンチン)	アルツハイマー病の中等度～高度に使えます。	「NMDA受容体拮抗剤」という作用をもつ薬で、上記3薬と併用できます。 興奮を抑える作用もあるので、怒りやすい、興奮しやすい症状が出ている認知症の人に有効です。

認知症の治療方法は、基本的に**薬物療法**と**非薬物療法**に分けられます。主に用いられるのは薬物療法で、これは**脳機能の低下による病気の進行を遅らせることが目的**となります。

認知症の治療薬は、認知症の症状である記憶障害や見当識障害、鬱や興奮からくる**イライラや不安な気持ちを和らげる効果があります。**

服薬治療をすることで、**残されている機能を保ちながら、日常生活を送るうえで支障になる症状を軽減することができます。**
進行を遅らせることができれば、本人がより穏やかな生活を送れるようになります。

